

【Windows版】SPSS Ver.30 コミュータライセンス手順

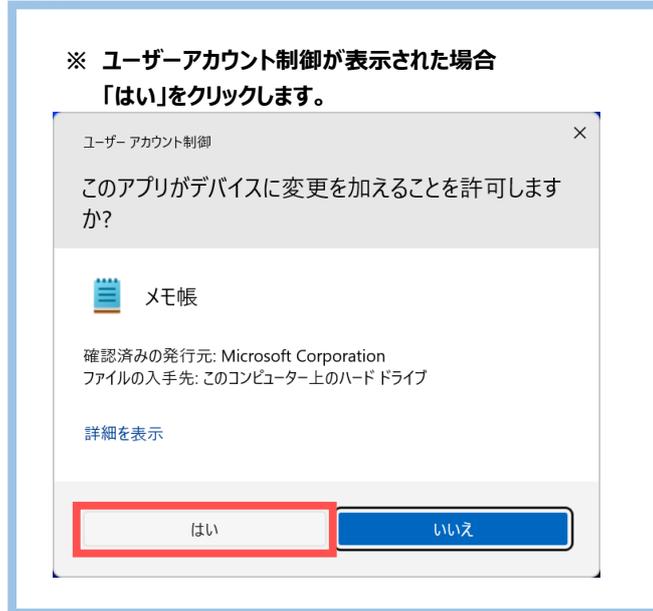
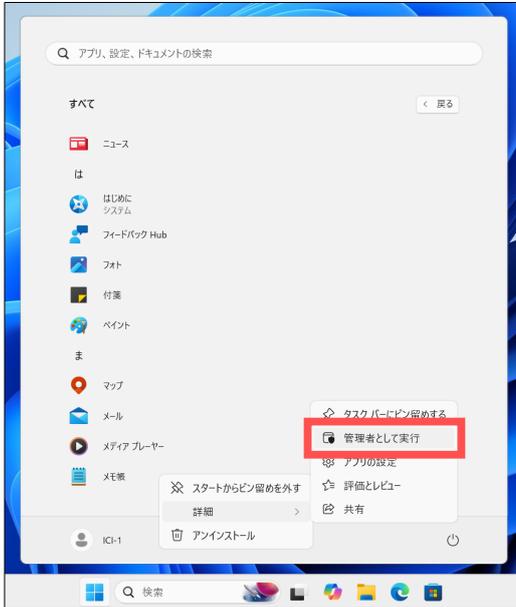
はじめに

- ・ 本書は、SPSS Ver.30 コミューターライセンス手順【Windows版】に関するマニュアルです。
- ・ 本書に掲載している各種画像は、2025年8月時点で取得したものです。 ※ 画面ショットと実際の操作画面が異なる場合があります。

初期設定（学外利用の最大可能日数の変更）

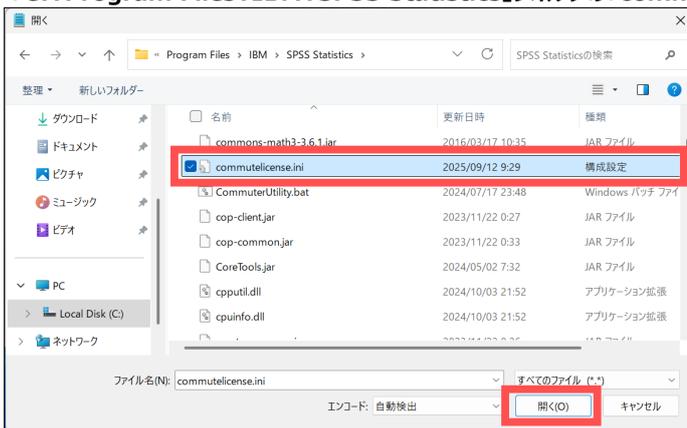
※学外利用時の最大可能日数を予め既定値の7日から30日に変更しておく

1. メモ帳を右クリックして「管理者として実行」をクリックして開きます。



2. 「ファイル」-「開く」で、右下の「テキスト文書(*.TXT)」を「すべてのファイル(*.*)」に変更し

「C:¥Program Files¥IBM¥SPSS Statistics」フォルダの「commutelicense.ini」ファイル選択し、「開く」をクリックします。



2. CommuterMaxLifeの値を「7から30に書き換えて上書き保存」します。

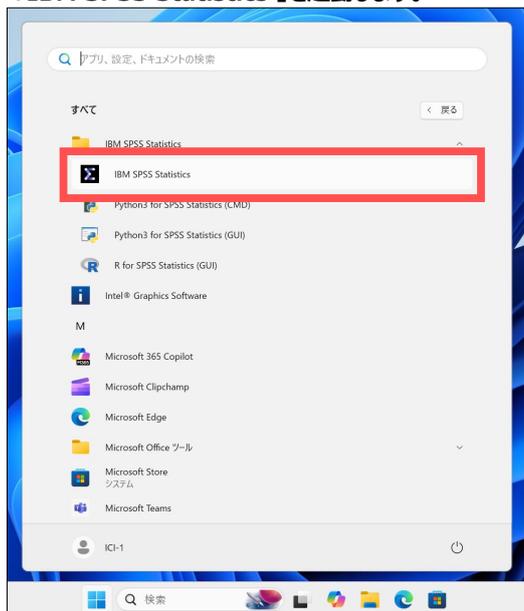
- 【注意】
- ・ 最大可能日数の変更は一度行くと30日で保持されます。
 - ・ 30日を超える設定は無効です。
 - ・ commutelicense.iniの他の設定は変更してはいけません。



「学外利用手続き」へ進んでください。

※ 必ずPCが学内ネットワークに接続された状態で行ってください。

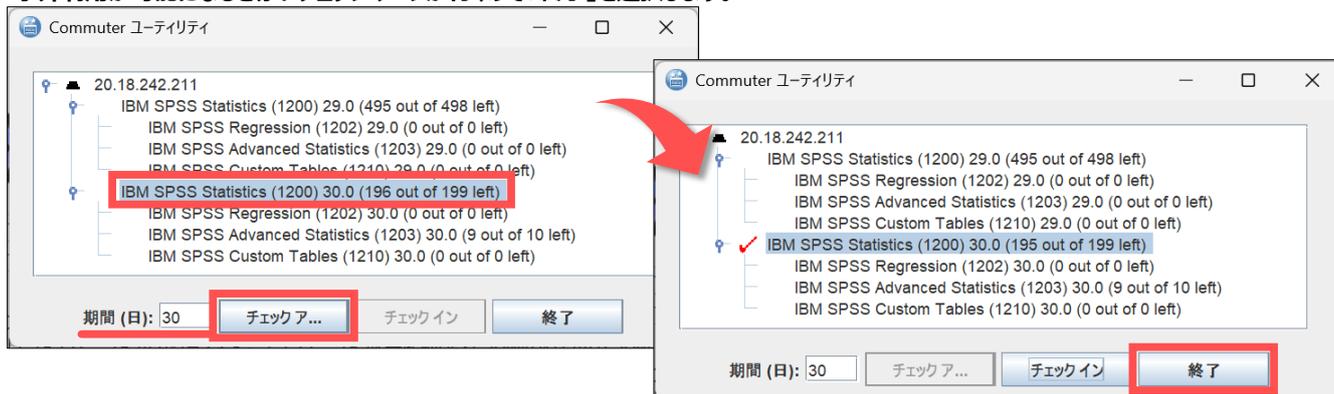
1. 「IBM SPSS Statistics」を起動します。



2. SPSSの「ファイル」-「ライセンス管理」を選択し「Commuterユーティリティツールの起動」をクリックします。



3. 「IBM SPSS Statistics 1200 30.0」モジュールを選択して（学外利用）期間（1～30日）を入力後「チェックアウト」を選択、期間の初期値は3日で利用期間に応じ最大30日まで変更が可能
学外利用が可能になると赤いチェックマークが付くので「終了」を選択します。



5. 「Advanced Statistics」モジュールを学外利用する場合は同様に行います。
学外利用台数が上限に達するとエラーコード77になり学外利用手続きはできません。

6. IBM SPSS Statisticsの再起動で「再起動」を選択することで学外利用が適用されます。
【注意】学外利用手続き後は学内で利用する場合も利用できるモジュールが学外利用手続きの範囲に制限されます。
学内で全てのモジュールを使用したい場合は「学外利用の解除」を実施します。

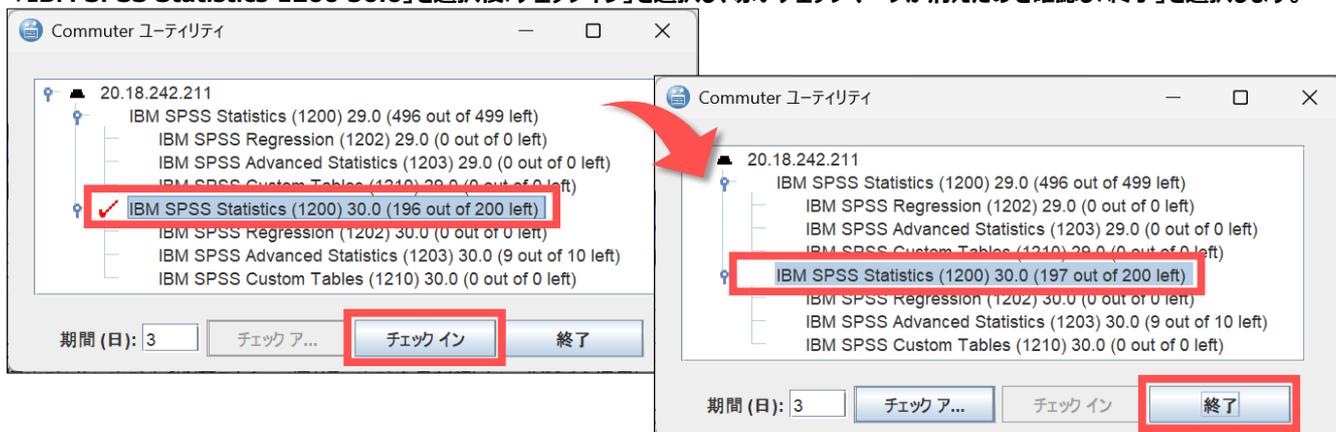


学外利用の解除

学外利用期間内に利用が終了した場合は、PCを学内ネットワークに接続し、「チェックイン」を行うことで学外利用が解除されます。
学外利用期間が過ぎた場合は自動的に解除されるため操作は不要です。

※ 必ずPCが学内ネットワークに接続された状態で行ってください。

1. 「IBM SPSS Statistics」を起動します。
2. SPSSの「ファイル」-「ライセンス管理」を選択し「Commuterユーティリティツールの起動」をクリックします。
3. 「IBM SPSS Statistics 1200 30.0」を選択後「チェックイン」を選択し、赤いチェックマークが消えたのを確認し「終了」を選択します。



4. 「Advanced Statistics」モジュールを学外利用していた場合は同様に行います。
5. IBM SPSS Statisticsの再起動で「再起動」を選択することで学外利用が解除されます。

